

事前質問及び回答一覧

事前質問及び回答

資料	頁	質問	回答
日本製薬 団体連合 会	1	フォローアップ対象企業のカバー率について、あらかじめ背景を確認させていただければと思います。 売上高ベースでは、2022 年度の 63.6%、2023 年度 48.9%に対し、2024 年度は 40.2%となっており、カバー率が低下しているように見えます。ただし、この数値には、対象企業の入れ替わり、回答企業の範囲、業界全体の売上高の変動など、複数の要因が影響している可能性があるかと理解しています。今回の低下をどのように分析されているのか、ご説明いただけますでしょうか。	売上高ベースのカバー率低下については、当会としても課題として認識しています。 2024 年度のカバー率 40.2%は、カーボンニュートラル行動計画フォローアップ対象企業の売上高 77,718 億円を、日薬連傘下企業全体の売上高 193,123 億円で除したものです。 業界全体の売上高は 2023 年度 196,901 億円から 2024 年度 193,123 億円へ減少しており、分母の拡大がカバー率低下の主因とは言えないとみています。 今回の低下は、主として、回答企業数の減少、対象企業の入れ替わり、回答企業の売上規模構成の変化によって、フォローアップ対象企業の売上高が減少したことによるものと分析しています。特に、売上規模の大きい企業の回答有無の影響が大きかったと見ています。 一方で、改めて確認したところ、分母として用いている厚生労働省統計の資本金規模別医薬品売上高は、連結決算を行っている企業では連結決算ベースで回答され、海外売上高を含む値であると考えられます。 これに対し、フォローアップ調査側の分子は、回答企業から報告された国内の医薬品売上高を集計したものです。このため、従来のカバー率は、過年度との比較可能性を確保するための参考値としては有用ですが、国内医薬品売上高に対する実質的なカバー率としては、分母・分子の範囲が完全には一致しておらず、低めに見えている可能性があります。 2024 年度について、国内医薬品売上高ベースで参考計算すると、厚生労働省統計の地域別医薬品売上高のうち国内売上高 95,144 億円を分母とした場合、フォローアップ回答企業の売上高 77,718 億円のカバー率は 81.7%となります。

			今後は、従来定義によるカバー率との継続性に留意しつつ、国内医薬品売上高を分母とした参考値も併せて示すなど、分子・分母の範囲がより明確に伝わるよう、記載方法の改善を検討してまいります。また、引き続き会員各団体・企業への参加呼びかけを行い、フォローアップ調査への参加企業及び回答率の向上に努めます。
日本製薬 団体連 合会	6 ～ 7	CO₂排出削減量あたりの投資効果について、今回、削減量を「使用期間あたり」で整理された点は、より実態に即した評価に近づける工夫であったと受け止めています。 この整理にあたっては、使用期間の設定や削減効果の見積もりなど、さまざまなご検討があったことと思います。見直しに至った背景と、算定に用いられた主な前提について、ご説明いただけますでしょうか。	設備投資による CO₂削減効果は、単年度の削減量のみで評価すると、ボイラー、空調設備、LED 照明、太陽光発電設備等のように、導入後複数年にわたり削減効果を発揮する設備の効果を十分に反映しにくい面がありました。そこで、昨年度のフォローアップ会議でのご指摘も踏まえ、2024 年度調査より、設備投資の長期的な削減効果をより実態に近い形で示すため、設備使用期間における見込累積 CO₂削減量を用いる整理に見直しました。 具体的には、各社から報告された年間 CO₂削減量に、当該設備の想定使用年数又は耐用年数を乗じ、設備使用期間における見込累積 CO₂削減量として算定しています。なお、今回の算定で用いた想定使用年数は各社回答に基づくものであり、今後は、設備分類ごとの標準的な使用年数の考え方や、回答時の根拠記載の明確化など、算定前提をより分かりやすく示せるよう改善を検討してまいります。